

衆議院選挙予定候補者各位様

気候危機対策に関するアンケート

ストップ気候危機！自治体議員による気候非常事態・共同宣言の会

衆院選に向けて日々のご奮闘に敬意を表します。

私たち「ストップ気候危機！自治体議員による気候非常事態・共同宣言の会」(略称:気候非常事態・自治体議員の会)は、全国の超党派の自治体議員 453 名(2021 年 10 月 1 日現在)で構成するネットワークで、気候危機問題に関するセミナーの開催や、政府・自治体に対し、より積極的な気候変動対策を求める活動を続けています。(詳細→<https://cedgiin.jimdofree.com/>)

本年 8 月、IPCC は第 6 次評価報告書の一部を公表しました。人間の活動が温暖化を引き起こしていることを「疑いの余地がない」と初めて断定的に指摘し、想定されうる将来シナリオのいずれの場合でも今後 20 年の間に産業革命前から 1.5℃上昇してしまう可能性が高いことも示されています。すでに世界のあらゆる地域で熱波や豪雨など極端な気候災害が頻発し、多くの人々や生物の命を脅かしている現状に向き合い、日本も含めた国際社会はより積極的な対策を講じる必要があります。

日本においても、国会や自治体で「気候非常事態」が宣言され、温室効果ガス削減に向けて、菅前首相によって「2050 年実質排出ゼロ」「2030 年 46%削減(2013 年比)」が掲げられました。

そうした中で、7 月には政府の「第 6 次エネルギー基本計画」が公表されましたが、これまでよりも再生可能エネルギーの拡大を明確にする一方で、その程度や電力構成割合などについては、NGO や研究者等からの批判も起きています。今後のエネルギー政策は気候危機対策にとっても最重要の課題のひとつであり、私たちのいのちや暮らし、将来に向けた社会のあり方を決定づけるものです。私たちは、この衆院選においても、気候危機問題の認識と対策が、重要な争点となるべきだと考えます。

そこで、選挙準備で大変お忙しいところ恐縮ですが、気候危機問題に関する以下のアンケートに下記の要領でお答えいただきたく、お願いするものです。

なお、ご回答については公開させていただくことをご了承ください。

回答期限:10 月 20 日

回答方法:できるだけ Google フォームをお願いします → <https://ux.nu/RioZk>

電子メールの場合:ced.jititaigiin@gmail.com (問い合わせ先兼)

FAX の場合:03-3389-0636

＜アンケート＞

所属政党_____

選挙区(比例区の場合はブロック)_____

予定候補者名_____ 現・新・元(←選択してください)

以下ご回答をお願いします(「エネ基」は「エネルギー基本計画」の略で、目標値等を記載しています)

1. 望ましい 2030 年中期目標の数値は？

(1) 温室効果ガス削減目標(2013 比)(参考:政府目標 46%)

① 40～50%

② 50 超～60%

③ 60%超

④ その他()

(選択した理由)

(2) 石炭火力発電の電源割合(参考:現在約 32% エネ基 19%)

① ゼロ

② 10～20%

③ 20%超

④ その他()

(選択した理由:50 字以内)

(3) 原子力電の電源割合(参考:現在約 6% エネ基 20～22%)

① ゼロ

② 現状(6%程度)維持

③ 20～30%

④ 30%超

⑤ その他()

(選択した理由:50 字以内)

(4) 再生可能エネルギー(水力含む)の電源割合(参考:現在約 18% エネ基 36～38%)

① 30%未満

② 30～40%

③ 40%超

④ その他()

(選択した理由:50 字以内)

(5) 最終エネルギー消費量削減目標(参考:エネ基 23%削減 ただし、註※参照)

※エネルギー消費量については、人口減少や省エネなどの進展で近年の傾向から考えても 2030 年で 30%減程度になると推計され、「23%減」は経済成長を見込んだ不十分な数字と指摘されている。

① 削減せず現状維持

② 15～25%

③ 25 超～35%

④ 35 超～45%

⑤ 45%超

⑥ その他()

(選択した理由:50 字以内)

)

2. 「2050 実質ゼロ」に向けて重要と考える政策を選んでください。複数可、ただし5つまで

① 自然エネルギーの飛躍的拡大

①の場合、そのうち特に重要と思われるものを以下から選択してください。複数可、これは①～⑬から「5つ」選択するカウントからは除きます。

(ア) 太陽光

(イ) 風力

(ウ) バイオマス

(エ) その他()

② 住宅・建築物の断熱・省エネ化

③ 電気自動車(EV)の普及

④ カーボンプライシング

⑤ 送配電網接続等の制度改革

⑥ CO2貯留新技術の開発

⑦ 水素・アンモニアなどカーボンフリーエネルギーの開発

⑧ カーボンゼロ電源としての原発推進

⑨ 途上国支援

⑩ 地産地消の推進

⑪ 公共交通機関のモーダルシフト

⑫ ヒートアイランドの緩和・抑制のための町づくり(「風の道」や都市内緑化など)

⑬ その他()

3. 上記に伴う産業雇用構造変化をどう考えますか(200 字以内で記述)

4. その他ご意見など(200 字以内で記述)